

# 令和6年度 授業評価アンケート実施結果

令和6年10月実施

## <結果と分析>

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	どの質問に対しても「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の回答が多かった。「授業の進む速さ」や「教え方」「質問への対応」「成績の明示」などについては「よく当てはまる」と答えた生徒が多かった。一方で「授業で「わかった」、「できた」と思うことがよくある」と「授業に集中できる雰囲気である」の項目に「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と答えている生徒もあり、さらなる改善の余地がある。	今後も継続して目標を明示し、生徒自身が到達点を理解した状態で授業に取り組めるようにするとともに、生徒が自らの成長を実感でき、達成感を得られるよう、課題や授業内容を工夫していきたい。また、到達点のレベルを調整しながら、書く・読む・話す・聞くの4つの力をバランス良く伸ばすことができるように授業を展開したい。
地歴公民	昨年度と比較し「授業で「わかった」、「できた」と思うことがよくある。」に「よく当てはまる」と答えた生徒が増えている。それ以外にも、問1から5について、「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が多く項目で上がっている。昨年度より進度を速めている科目、考えて表現する時間を増やしている科目が多く、内容が難しくなっている中で理解度、達成度を下げずに授業を構成できている。	その日の目標を意識的に提示していたが、当該項目の「よく当てはまる」が想定より増えていなかった。その日の授業内容、授業内でクリアすべき項目を明示することが、理解度の向上につながるため、よりよい提示方法を考えたい。
数学	「授業で「わかった」、「できた」と思うことがよくある。」の項目で全く当てはまらないが3.3%となり、授業中の達成感が不足していることが読み取れる。「最初にその日にすることがわかる授業(実習)である。」の項目が低くなっている。	授業中の達成感とその日にすることがわかる授業をこころがけ、1単位あたりの授業作りを徹底していくことが必要と考える。
理科	全体的に「よく当てはまる」が減少傾向であるも、「だいたい当てはまる」と合わせれば9割以上が良好な回答をしている。しかし「わかった」、「できた」と思うことがよくあるの項目では「よく当てはまる」が最低である事からも、生徒にとって分かりやすい授業の実施に向けた改善の余地があると考えられる。	学習内容や単元の目標をしっかりと提示していき、実験・観察やICT機器の活用しながら、学習内容の理解の助けとしたい。また、理科に対して苦手意識がある生徒も積極的に授業に参加できるように、学習内容や目標の提示を明確にし、日常との関連を具体的に提示し、授業の構成などの工夫をしていきたい。
外国語	全体的に「よく当てはまる」、「当てはまる」の回答が多かった。全学年が新学習指導要領へと変わり、英語の4技能(読む・聞く・話す・書く)5領域を育成する必要がある。評価の観点からも、課題に取り組む十分な時間が必要である。生徒の様子を見ながら授業を展開していく中で、今回の「授業の進む速さは適切である」という項目の回答も「よく当てはまらない」「当てはまらない」が無かった事から、今後の授業に活かしていきたい。	生徒の基礎学力を定着させると共に、より一層の「わかった」や「できた」の割合増加を目指したい。授業で使用するプリントの裏面などに、学習した内容の英会話や英語にまつわる物を記載するなどして、学習が一段落した際などに活用できる内容を盛り込むなど工夫を凝らして、生徒の興味関心分野を増やしていきたい。
保健体育	「当てはまらない」の数は昨年度に引き続き0となり、結果は良好であった。今後「よく当てはまる」の数が増えるように授業の改善に心がけていきたい。また、「授業で「わかった」、「できた」と思うことがよくある。」で「あまり当てはまらない」と回答した生徒が数名いたため、運動が苦手な生徒が達成感を味わうことができる授業づくりをしていきたい。	ホワイトボードやiPadなど視覚教材を積極的に使い、知識や技術の獲得を促していきたい。運動が苦手な生徒が達成感を味わうことができる授業づくりをするために、スモールステップで授業を展開していくことや状況によって習熟度別や課題別の学習なども取り入れていきたい。
芸術	生徒の特性を考慮した教材の提示方法と、協働的な学習のバランスを工夫したためか、自分はまじめに取り組んでいるの項目で「よく当てはまる」と回答した生徒が57.1%、あてはまらないと答えた生徒は0と昨年度より改善された。しかし「わかった」「できた」と思うことがよくあるでは「全くあてはまらない」「あてはまらない」が各1名いるため今後工夫したい。	様々な特性を持つ生徒が熱心に取り組めるように表現や鑑賞の教材を工夫したい。毎時間、開始時には振り返り学習をしてから目標を明示し、グループ学習を軸にしながらも、チェックリストを用いることで各自が学びの主役となれるよう工夫したい。
家庭	「最初にその日にすることがわかる授業(実習)である。」の項目で「あまり当てはまらない」が5%と低くなっている。また、「自分は授業にまじめに取り組んでいる。」や「授業に集中できる雰囲気である。」「次の授業が始まるまでに、自分の準備ができている。」などの授業への取り組み項目が低くなっている。	授業開始時に授業ごとの目標や学習内容の提示を行い、生徒の学習意欲と理解が高まるよう授業を進めていくことが必要だと考える。また、授業開始時に、身だしなみや授業準備等を点検し、メリハリをつけて授業を受けれる環境づくりを進めていきたい。
情報	先生はていねいに質問に答えてくれるの回答に、『よくあてはまる』が93%『あてはまる』が7%と、生徒に安心して授業に取り組むことができる環境を整えられていることは今後も継続していきたい。なお、情報は必修科目で今年度より大学入試科目にもなっている。今後生徒が社会で生きていくために必要な知識として、わかった・できたと感じられるかという質問に対して『あてはまる』と回答した4割の生徒の比率を引き上げていきたい。	生徒自身の授業準備や授業への取り組み方がよくないと回答している生徒が6.7%と少数ではあるが見受けられる。休み時間の間に教室に入り、生徒が授業に取り組む姿勢を整えられるよう声掛けをしていきたい。また、授業の始めに本時の学習内容をしっかりと周知してから内容に入るよう意識する。
農業	全ての項目について「よく当てはまる」「当てはまる」が90%以上であり、生徒の満足度が高いものとなっている。しかし、自己評価の質問である「自分は授業に真面目に取り組んでいる」が低い生徒がいるので、集中できる環境作りが重要であると考えられる。	授業の指導は現状のまま、座学の確認を実習で行い、生徒の理解度に合わせて授業を展開することに重点をおいて指導していきたいと考える。そのため常に、座学と実習のバランスを考えながら授業を計画していきたい。授業に真面目に取り組めない生徒については日々の声がけやわかりやすい指示で生徒のモチベーションと姿勢を高めやる気と集中力を引き出していきたい。
工業	よく当てはまる、だいたい当てはまると回答する生徒がすべての項目で95%以上になっている。1年次は専門的な実習にも意欲的に取り組んでいる姿が見受けられる。また、2、3年次も系列の授業以外の資格や校外活動などにも積極的に参加している。	現在、全学年で5S講習会、1年次板金、2年次溶接、3年次溶接、課題研究、QC講習会など外部講師を招聘し指導にあたることで実技指導の充実を図っている。また、情報教育の充実も図っている。今後も座学等でも更に活用しながら充実した授業にしていきたい。
商業	どの項目でも「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」がほとんどで、昨年より改善が見られたと感じる。教え方、評価の出し方、生徒の理解度について、「よく当てはまる」の評価に繋がるように取り組む必要がある。	授業の導入で、授業内容と目標を明確に伝えることで、理解度・授業への満足度が上がるようにしたい。評価の出し方については、説明する機会を増やしたい。理解度に差がある場合、チームティーチングでもなかなか個別に対応できない場面が増えたので、補習等で対応できればと考えている。
福祉	全体的に「だいたいあてはまる」の回答が多かった。また、「全く当てはまらない」も1割超回答あったため改善する必要性を感じた。	「全く当てはまらない」の回答があったことにつきましては、生徒が教員をよく見ない部分があった。今後の授業を展開して行く際、授業内容を見直し達成感の得られるようにしていきたい。